

県 再生可能エネルギー導入量2倍を予定 原子力に依存しないエネルギー社会の実現へ

8月9日、滋賀県危機管理センターで県内高校新聞部を対象とした会見が開かれた。テーマは「再生可能エネルギーの活用」「県北部の人口減少について」。ここでは「再生可能エネルギー」についてお伝えする。



再生可能エネルギー導入について話される三日月知事

まず、知事からの説明があった。
IPCC（気候変動に関する政府間パネル）によると、1850年から2020年までで世界の平均気温は1.09度上昇している。今、世界中でそれを少しでも抑えようとする活動が行われている。
滋賀県では、使うエネルギーを減らす省エネ、再生可能エネルギーの導入による温室効果ガスの削減を取り組みとして挙げている。2030年までに温室効果ガスの排出量を半減、再生可能エネルギー導入量を2倍以上にする計画があり、温室効果ガスの排出量は順調に削減されている。
また、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという目標を掲げている。
完全ゼロは私たちが二酸化炭素を排出しているため無理だが、使うものを減らすと同時に、使い方を変える、森林などを増やすことにより、吸収するものを増やし、実質ゼロにするという取り組みなどがある。
二酸化炭素を出さない電源として原子力発電がある。しかし、事故が発生した場合に影響を受ける地域には約5万人が住んでいる。そして、使用

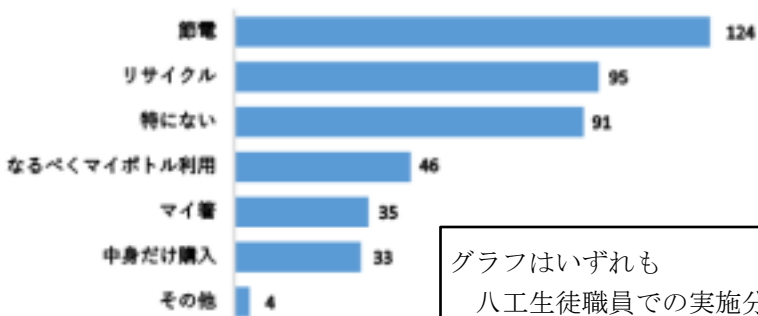
知事の会見から私たちは、環境についての意識がどのくらいあるのかを調べるため、全校生徒・職員にアンケートを行った。後日、追加で中学生体験入学に来られた保護者にも協力してもらった。

環境についての意識調査

知事は「ぜひ、皆さんに何ができるか考えてほしい」と私たちに呼びかけた。
なお、他校の質問（抜粋）について興味のある方は下のQRコードで確認してみてください。

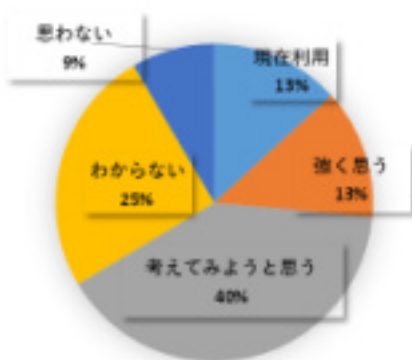


環境に気を付けていることは？

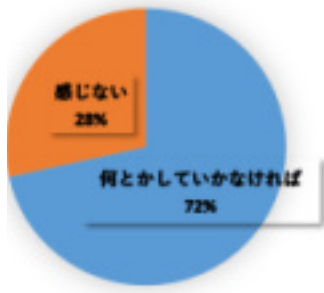


グラフはいずれも
八工生徒職員での実施分

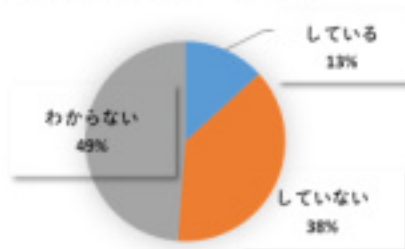
将来、再生可能エネルギーを取り入れたい？



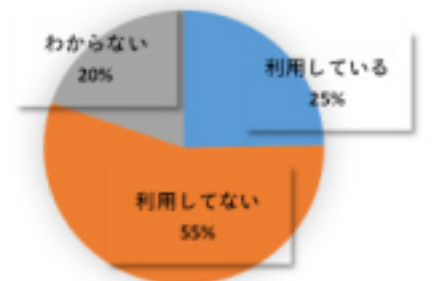
来に不安を感じるか？



家庭用蓄電池の利用は？



太陽光パネル発電システムの利用は？



地下水を用いた空調設備 能登川アリーナに設置

8月20日、記者（藤）と（北）は東近江市にある能登川アリーナを訪れた。この施設は令和7年に開催される第79回国民スポーツ大会において、ボクシングの競技会場に決定している。
アリーナは、県内で初めて採用された放射式空調設備を導入している。近くまで行くと、とても涼しく、長時間いると足が冷えそうであった。
その設備について、副館長の坂野昌弘さんに伺った。
「仕組みとしては、地下水（井戸水）をポンプで吸い上げ、その水を館内にある放射パネル（柵）に循環させるもの」



↑ 放射式空調設備緑色の部分に水滴が付いていた

特に夏は有効なのだそう。エアコンのように熱を外に出さないため電気代の節約にもなるエコな冷房だ。災害時に避難場所となっても快適に過ごせそうだ。
もっと普及してほしいと思うところだが、設置費用がエアコンよりも高額な為、普及には時間がかかりそうだ。（藤）

八幡工業高校生に考えてほしい環境問題

電力の需要が高まる一方で、電力を供給するエネルギーが問題になっている。再生可能エネルギーへの期待が高まるが、データを見ても現在の供給は9%に満たない。太陽電池を製造するには大量のエネルギーが必要とされ、その廃棄も問題となっているなど、原因は色々ありそうだ。

皆さんも工業に携わる者の視点で、再生可能エネルギー化が進まない理由を調べてみてみよう。その中で、八幡工業高校としてどのような環境活動ができるのか、SDG'sがCO2ネットゼロの取り組みやMother Lake Goalsを参考に、生徒会活動や部活動をはじめ、課題研究などで工業高校生らしい取り組みを見せてほしい。

（環境化学科手良村先生）

と、私たちに問いかけてもらった。この問題や環境化学科で研究しておられることを別の機会に皆さんに伝えていきたいと思っています。

2019年度の国内供給	
石油	37.1%
天然ガス	22.4%
石炭	25.3%
水力	3.5%
再生可能エネルギー	8.8%

エネルギー白書2021より